手をつなぐとも
# 等友
S60・10・1生

〒111-0041
台東区元浅草
2－10－17
3841－2844
真宗大谷派
勝龍山
等覚寺
住職
朝倉創

平成29年6月
第105号
責任編集
朝倉 翔

雨の等覚寺境内

**往生は、なにごともなにごとも、**
**凡夫のはからいならず、**
**如来の御ちかいに、まかせまいらせたれ**
**ばこそ、他力にてはそうらえ。**
**ようようにはからいおうてそうろうらん、**
**おかしくそうろう。**

往生ということは、何事においても、私たち凡夫の思いはからいではなく、阿弥陀如来のお誓いに一切をおまかせするからこそ、他力というのであります。
それぞれの思いはからいで往生できるとかできないなどと考えること自体、おかしなことであります。

「毎日法語　第3集　声に出して味わう教え」
東京教区教化委員会　広報出版部

# 住職から一言

梅雨入りしてからも暑い日が続いております。もうそろそろお盆の時期ですね。いまからお盆法要でどんなお話をしようか思案しているところです。

さて今回の等友では、昨年十一月に鬼怒川温泉で開催されました「推進員のつどい」に参加された長澤さんから、感想文をご寄稿いただきましたのでご紹介させていただきます。推進員のつどいとは、二泊三日の研修ならびに帰敬式をお受けになった推進員の方だけでなく、一般の門徒さんも参加できるもので、一泊二日温泉につかり、お酒を酌み交わしながら仏法（仏さまの教え）を聞く楽しい研修です。以前にも箱根で行われた際は鳴海さんにご参加いただきました。今回は等覚寺にもお越しいただいたことのある牧野豊丸先生にご出講いただき、浄土真宗の教えを通してあらためて人間としていのちをいただき生きていることを見つめなおすご縁をいただきました。日常生活から離れ、非日常の中で教えにふれ、自分自身が見えてくる。本当に大事なことかと思います。この研修旅行はどなたでも参加できるものとなっております。長いものでで二泊三日であり、なかなか時間を作ることは難しいかもしれませんが、みなさんの人生において大事なご縁となるかと思いますので、ぜひ一念発起しご参加いただければと思います。その際は私どももご一緒したいと思います。

真宗入門講座や推進員のつどいに関して、詳しいことはぜひお問い合わせください。

○推進員のつどいに参加して　長沢貢

昨年の秋になりますが、東京教区「推進員のつどい」に参加しました。「歎異抄」の勉強会の時に住職から聞いて、行きたいと思ったのは会場が鬼怒川温泉ホテルということ。それが正直な動機かもしれない。亡き両親が時々行っていた話を聞いていて一度は行ってみたかったのです。

現地集合で会場に入り手続きを済ますと略肩衣（りゃくかたぎぬ）を着けた方々が前方に詰めていらっしゃいました。帰敬式を済ませた人、生前に法名を受けた人で二泊三日の講習を受けた人達なのです。私がこの場に居ていいのだろうかと不安がよぎる。

一日目は午後から夕刻まで、二日目は午前中に講義がびっしり入っている。講師の牧野豊丸先生は福井教区、託願寺のご住職で自己紹介から引き込まれてしまう。様々な仕事をしてこられ、沢山の経験をされていて、中でも教誨師（きょうかいし）をされていた頃の話は大変興味深いものがあった。

休憩をはさんで六班に分かれ座談という時間がもたれた。皆さん寺の中心となって活動されている方々で、各寺の抱えている問題などを話された。熱心であるからこそ感じていることだなと思った。

ちなみに牧野先生の講義は、

『・人間関係が希薄になっている現代において「人と寺のかかわり」も薄くなっている時代に、葬式だけが寺と門徒を結ぶものになっていて正に「お骨」で繋がっていると言うのが現実である。・遺族がお墓参りに来ないで、無縁仏になってしまう墓も増えている。・生きる力を与えてくれるもの、それが寺であり、葬式に坊さんが関わっていくのはその為なのです。・推進員とは例えるならば船のスクリューであり、またランプの火屋（仏法を守る）である。・分かろうとする人

が集まる宗門とはそういうものだ。・浄土真宗の坊さんは門徒が育てるものなのである』

先生はこの様な話をされました。毎日の一見幸せそうに見える暮らしの中にも満たされないもの、不安は誰しも抱えています。皆、生きていく為の指針がほしいのです。各先生のお話しを聞きたいのも先人から学びたいからこそのことでしょう。私は寺の行事を通して亡き人たちと対話しているのだと思っているので、これからも出来るだけ行事に参加していきたいのです。

長沢さんと住職
（紅葉をバックに）

## 行事報告

### ○新年会法要

平成二十九年一月十六日に新年会法要をお勤めいたしました。新年ということで、他の合同行事と違い、楽しい雰囲気の新年会法要は個人的にも楽しみな行事です。今年も無事にお勤めすることができました。

こちらでは当日の等覚寺住職からの法話をご紹介させていただきます。

・願い事

皆さんがお焼香される姿を見ながら、お経を勤めてましたが、どうですか皆さん、お焼香のとき、阿弥陀さんに何をお願いされましたか。今年一年よく過ごせますようにとか、孫が今年受験だから、そういうことをおっしゃった方もいるかもしれません。以前ご説明差し上げましたが、浄土真宗のお寺ではお願い事をかなえるようなお札やお守りは販売

していません。そういった私たちの願い事（願い事と言えば聞こえはいいのですが）というのは、つまり私たちの欲です。ああしたい、こうしたい、ああなりたい、こうなりたい。その欲こそが実は私たち自身を苦しめるもとになるんだ、ということをお釈迦様が説かれました。そして親鸞聖人も、願いを叶えたいという思いを無くすことはできないけれども、ただ、自分の思い通りになることを願うことが実は苦しむ第一歩であるということを知りなさい、それを知ることが大事なんだということを教えて下さっています。これらのことが、健康祈願や交通安全等のお守りは売っていないというわけなのです。

余談ですが、車なんて誕生してまだ百年程ですけど、交通安全の神様は車がない時代は何をしてたのかなとか笑いながら弟と話して、調べてみたら、どうやら神社によって違うのですが、例えば、海の船の交通安全だとか、または昔は京都の都に歩いて無事に行って戻れたのは途中にあるあの神社のおかげだとか、そういうことがきっかけとしてあったようですね。何を言いたいかというと、私たち人間は結局、私たちの欲を、願いをかなえたいがためにそれに合う神様や仏様を作ってきた歴史があるということを、まず知っておかなければいけないということですね。だから、私たちの都合のいい神様がいっぱい作り出されてきたのです。

今日こういう寒い中、皆さんこうやって貴重な日曜日に時間を空けてお参りに来られたということはですね、多分、いらっしゃった皆さんは、今年一年いいことがあると思いますよ。それと同時に悪いこともあると思います（笑）いいこともあるし悪いこともある。結局こういうことですね。

・念仏もうさるべし

今日お話ししたいのは、蓮如上人の『念仏もうさるべし』という言葉です。蓮如という方は今から五百五十年前を生きた方です。本堂の右奥にお飾りされている親鸞聖人。親鸞聖人が浄土真宗を開かれて、その後、八代目の本願寺のご住職だったのが蓮如という方。大変優秀な方で、カリスマ性があり、蓮如が来ると言うと、そこに何万もの人が集まる。今でこそ何万人は普通ですけど、江戸時代より前の人口が今よりだいぶ少ない時代に、何万人も集まるというのは大変なことで、しかも人が集まり過ぎて事故が起きてしまうくらい。そのぐらい人気な方だった。五木寛之さんも『蓮如』という本を書いてますので、ぜひ読んでみてください。日常生活なり仕事なり、人生に通ずることが蓮如上人の生き方からたくさん学べると思います。

それで、その方がこの言葉をおっしゃった。『念仏もうさるべし』。これは誰に言ったかというと、勧修寺村の道徳という方に言ったそうです。道徳さんが新年のご挨拶に蓮如上人の所に行った時、明けましておめでとうございます、みたいな感じで挨拶された時だと思うんです。そしたら、蓮如上人が、「道徳、道徳はいくつになるぞ？」と。そしてその後に、「道徳、念仏もうさるべし」と一言お返しされたということが残っています。この時、道徳さんは七十四歳、蓮如上人は七十九歳でした。この道徳さんも非常に熱心で、何度も仏教や親鸞の教えを聞いてきた方です。そんな方に、念仏もうさるべし、念仏を申せよということをあらためて言ったという、この新年の逸話をご紹介いたします。

昔はご存じのように数え年ですから、誕生日が来て一年一歳、年を取るのではなくて、新年を迎えるとみんな同時に一歳、年を取ったわけですね。ですから、最初に道徳は今年

でいくつになったんだということから始まったのだと思います。ただここには、非常に深い、蓮如上人の願いがあったと思うのです。これはどういうことかというと、道徳さんが明けましておめでとうございますと、そういう俗世間の、一般的なあいさつに終始したところにあります。たとえ元旦であってもそうやって一般の習俗のあいさつに終始するのではなくて、本当に念仏を大事にしなさいと、おめでたいって言ってるけれども、一体何が本当におめでたいのかということですね。私たちは新年を迎えると、当たり前のようにおめでとうございますと言っています。私たちにとって本当におめでたいことはなんなのか、ということを問い直せということを蓮如上人はおっしゃったのではないかと。そして、念仏こそ、私たちが大事にすべきものだよと、あらためて提起されたというわけです。

今日、たまたま弟が最後に読んだ御文が『末代無智』という御文でした。この御文も蓮如上人のお手紙です。『末代無智の在家止住の男女たらんともがらは』という言葉から始まりました。そして最後には『ねてもさめても、いのちのあらんかぎりは、称名念仏すべきものなり』と。寝てる時も起きてる時も、四六時中いつも、命のある限りは称名念仏すべきものなりと。称名というのは名前をとなえる。誰の名前をとなえるかっていうと、阿弥陀さんですね。阿弥陀如来。阿弥陀如来の名をとなえる。ですから称名 念仏これ二つで南無阿弥陀仏ということになります。

この南無というのは、南に無いと書きますが、南に無いなんていうのは当て字です。字には意味が無いのです。何が南に無いのかとか聞かれても答えられません。要は念仏が中国に伝わった時に、古代インドのサンスクリット語の音を漢字に当てただけなんでね。それで、この南無は何かというと、お任せす

るという意味なのです。ナマステという挨拶をインドではしますけれども。ナマステというのは、あなたにお任せしてます、あなたを信頼してますよという意味です。ステはあなたを指します。ですから、阿弥陀仏に私は全てお任せして生きていきます、というのが南無阿弥陀仏というわけですね。これが念仏です。

新年を迎えて、一つ年齢を重ねたわけですね。年を重ねた今だからこそ、あらためて何が大事で、そして何をよりどころにして生きていくべきか。私たちのいつ終えても不思議でないこの命、もしかしたら、今日死んじゃうかもしれない。あらためてこの命について見つめ直すタイミングなんじゃないか、ということを蓮如上人は道徳さんに新年に言ったんじゃないかと思います。

道徳よ、いくつになった、そして、『念仏もうさるべし』と言う。弟いわく、この時代にもこんな厳しい、イヤな人がいたんだね、と言ってました。ただあいさつしに来たら、もっと念仏申せと、こんな厳しいこと言われて。ですが、その裏側には蓮如上人の本当の願いがあったのではないかなと思います。

・法話の内容覚えてる？

よくこういうお話を、ご門徒さんと一緒にいろんな先生の所に出向いて、聞く機会があるのですが、ある方がすぐ忘れちゃうんだとおっしゃってました。聞いている時はそうだなあと思って熱心にメモしても、先生の所を出たらもう忘れちゃう。これ、みんながみんなそうだと思うんです。僕もそうです。私たち人間、すぐ忘れちゃうのは仕方ないことなんです。それでその、同じ方が昔の時代にもいたんです。その方が、蓮如上人に言ったそうです。私はいつも先生のお話を聞いて、そ

うだなあ、いいことだなあって思うんだけど、まるで目の大きな籠で水をすくうがごとく、どんどんこぼれ落ちてしまう、と。蓮如上人はその方に対して、「その籠を水につけよ」と、一言おっしゃったそうですね。要は、この目の大きな籠で水をすくおうと頑張るから大変なんだと、もうその籠、つまりあなた自身を、水という仏教の教え、教えの中に浸しなさいとおっしゃったそうです。

ですから今年、また例年どおりの過ごし方をされても結構です、ですが、せっかくの機会ですから、どうぞ今年はお念仏をもうす、そういう暮らしをしてみませんか。そして一念発起された方はぜひ勉強会や行事にご参加されてみてください。どうも日々生きているけれどもむなしさを抱えていたりだとか、おぼろげながらも不安がある方はぜひ、真宗の教えを聞いて、本当に生きるとはどういうことなのか、この命を生きているというのはどういうことなのか、また何を大事にすべきなのか、ということを今年一年、聞いてゆくスタート、きっかけとしていただければと思います。本当にこれはありがたいことだと思いますし、結局、今を大事にできるからこそ、今日が大事なので、そして今日が大事だと、一週間、そしてこの一年を大事にすることができるんだということだと思います。

・思い通りにならないいのち

真宗の教えは今年、終える頃にはお金持ちになってるといいなとか、または健康に過ごせるようなったらいいなと、そういう願いをかなえるものではありません。あらためて申しますけど、死ぬというのは確かに怖いこと、いやなこと、だからなるべくピンピンコロリでいきたいなと、そういうことばっかりを考えて生きることではないんですね。そういうふうに願ってもそうならないのが命なのです。そういうところをまず、受け止めていく。そ

うすると今まで見えなかったことが見えてくるということですね。

私たちにはいろいろな生き方があります。元気で長生きできれば、それは私たちにとってはありがたいことですが、そうもいかない人生もある。いろんな病を抱えたり、年老いていってしまったりというわけです。そういう病や年老いていくこと、そして死ぬことを、嫌なことだからなるべく考えない、いろんな神社にお参りして先々のお願い事ばかりして今を見ない、そうやって避けていくことは実はいのちが暗いままなんだということですね。病も私たちにとって、阿弥陀さんが私たちを救おうとされている本当の願い「本願」に出会う大切なご縁になったという方もいます。この病を患ったことによって、あらためて生き方を見つめ直し、今まで大事にしてきたことは、実は諸行無常、意味のないこと、仮のものだったんだと。本当に大事なことはこういうことだったんだと。そういうことに出遇うご縁だったんだといただくことができれば、死や老いや病も私自身のためにあるご縁だと、いただける日が来る。このように口で言うのは簡単なんですが、これなかなか大変な、難しいことです。ですが、それを実現していくために教えを聞き続ける歩みをして、念仏を申す生活をしていただきたいと。そう願いまして、本日のご法話とさせていただきたいと思います。

（法話　住職 釋 創龍）

# 墓じまい？

最近テレビを見ているとお墓の特集をよく見かけます。それは納骨の方ではなく、お墓を整理する「墓じまい」と呼ばれるもの。お墓の管理をする人がいなくなりそうな方がお墓や納骨されているお骨を整理して永代供養してもらう、ということでした。等覚寺のご門徒さんの中にも、お墓のあとを継ぐ方がいなくてお困りの方もいらっしゃったようなので等友の中でもご紹介しようと思います。

まず、お墓を継ぐというのはどういうことでしょうか。一般的に言われているのが、お墓を継げるのは長男だけ、嫁いでしまったら後は継げない、ということです。これ、結論から申し上げれば間違いです。ご長男でなくても継げますし、嫁いで名字が変わった方も継いでる方は多くいらっしゃいます。ですから、一般的に言われているよりもお墓を後に残すということに関しては、一般的に考えられているより条件は少ないかなと思います。

では、お墓を継いだ人はそれまでとどのような事が変わるのでしょうか。やはりお寺との付き合いが始まるというと、拒否感をもたれる方が多いのは事実です。実際に後を継ぐと、次のような事が始まります。

・寺院墓地の維持管理費のお支払（年1回）・法事のお勤め（今まで通り）・合同行事の案内状や広報誌（等友）の送付

この三点のみです。いろいろな人に話を伺うと、お寺とのお付き合いの拒否感の一番の原因となっているのが、寺院からの寄付の要求だそうです。中には振込用紙まで同封してくる場合もあるとか。たしかにこんなことをされてしまうとお寺とのお付き合いにうんざりしてしまうことはわかる気がします。しかし等覚寺では、先代住職の時代にさかのぼってみても強制的な寄付の要求をしたことは一

度もありません。本堂や庫裡（客殿）の建て替え時に寄付を募ったことがありますが、これもご有志の方にお願いしたのみでした。ぜひこの点について、下の世代の方たちにお伝えいただきご安心していただきたいと思います。

それでも継ぐ人がいない、という方ももちろんいらっしゃると思いますので、そうなった場合についてご説明いたします。等覚寺の場合、永代供養墓がございますので、そちらへの改葬をお勧めしております。一般的に埋葬場所を変えるとなると、自治体への改葬許可を申請する必要がございますが、等覚寺内での改葬のためこの面倒な申請も不要です。

では、実際の墓じまいまでの流れをいいますと、

①お寺へご相談、永代供養墓納骨のお申込
②お骨を永代供養墓へ改葬、墓前での読経
③今までのお墓の撤去（石屋さんへの撤去費用がかかります）

以上です。皆さまが思っているより難しいことではないと思います。

少しでもお墓のことでお悩み事があれば、ぜひお気軽にお寺までご相談ください。お寺に聞いては失礼なことなど無いのでご安心ください。

等覚寺 永代供養墓

**倶会一処**

くえいっしょ

## 備忘録　～法事の準備～

**○まずはお寺へ日程連絡**

回忌の確認をし、ご家族で法要希望日をお決めになりお早目にお寺へご連絡ください

**○当日必要なもの**

・お布施

・お花代（本堂にお飾りする　お花代で、一万円の実費）

**○ご希望によってお持ちください**

・お供物

・過去帳やお位牌

・遺影（小さいもの）

**○服装は平服でも結構です。**

（ご参加される方同士でお話しされてお決めください）

※お寺へお包みいただく表書きは全て**「布施」**と　書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は**「読経料」**

**「ご霊前」という言葉は用いません。**

## 備忘録　～お焼香作法～

**○お焼香のタイミング**

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出てご焼香ください

**○お焼香作法**

・焼香机の前に進み、合掌せずにご本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒（香入れ）の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を二回、香炉にくべます。**（お香を額に頂くことはしません）**お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

## 備忘録　～お葬式について～

**○事前のご相談もお気軽に**

亡くなられた後ではバタバタとしてゆっくり検討する時間がありません。お寺にご連絡いただければ葬儀までの流れなどご不明、ご不安な点のご説明もさせていただきます。

**○葬儀の場所**

基本的にどちらでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいておりますので気にせずにご依頼ください。また、可能な方は**ぜひお寺でご葬儀を**。故人が生前ご縁のあった等覚寺の本堂で、あたたかくおごそかなご葬儀をすることができます。

**○葬儀の布施**

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではありません。亡くなった時をご縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽にご相談ください。

## 備忘録　～ご納骨について～

**○ご納骨のみはお受けできません**

一般の墓地をご利用の場合、浄土真宗の教義に則って、葬儀式をお勤めしてからのご納骨となります。（永代供養墓は除く）

式のやり方のご希望等ご相談に乗れる部分はありますので、必ず火葬前にご連絡ください。

## ご披露

**等友へのご懇志**

浅井京子様　鈴木きみ子様　高橋健治様
山田實治子様

（順不同）

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立っております。

# 編集後記

こんにちは！釋翔雲です。ついにこの季節がやってきました！そう、旅行会です！今回はいま一番話題と言っていいのではないでしょうか、母畑温泉の八幡屋さんです。ここは今年の調査で日本の旅館ベスト１に輝いた旅館なんです。母畑温泉は福島県にある温泉で、この八幡屋さんはとても大きな旅館なのですが、そのおもてなしがとてもいいということで、ご門徒さんからもリクエストをいただいておりました。実はこの旅館、２００８年頃にも旅行会で行きましたが、その時の評判がとてもよかったのです。ですから今回、ベスト１に輝いたこともあり、等友旅行会でもう一度行きましょうということになりました。

僕自身は初めてなのでとても楽しみにしています。また旅行会の内容は次号の等友でご報告いたしますので、ご覧になってご興味を持たれた方はぜひ次回の等友旅行会にぜひご参加下さいね。

◎ペットのお墓について

お待たせいたしました。以前からご要望いただいていた、ペットのお墓を今年中に建立する予定で動いています！場所は本堂の外階段の脇です。詳しい条件等は住職が詰めているところですので、決まり次第またご案内させていただきます。ご利用になりたい方はお気軽にお声掛け下さい。

◎墓地の階段について

墓地の階段は、幅が狭く急で手すりも無くご利用しづらいので、今夏に階段の改築を行います。お楽しみに！

# 平成二十九年行事予定

七月十三日～十六日　お盆

七月十六日(日)　盂蘭盆会法要
十時半～　初盆の方
十三時半～　一般の方

九月二十日～二十六日　秋季彼岸

十月二十二日(日)　報恩講

◎みなさまお誘い合わせの上、
お気軽にご参加ください。

# 平成二十九年 年回表

| | |
|---|---|
| 一周忌 | 平成二十八年 |
| 三回忌 | 平成二十七年 |
| 七回忌 | 平成二十三年 |
| 十三回忌 | 平成十七年 |
| 十七回忌 | 平成十三年 |
| 二十三回忌 | 平成七年 |
| 二十七回忌 | 平成三年 |
| 三十三回忌 | 昭和六十年 |
| 三十七回忌 | 昭和五十六年 |
| 四十三回忌 | 昭和五十年 |
| 四十七回忌 | 昭和四十六年 |
| 五十回忌 | 昭和四十三年 |
| 七十回忌 | 昭和二十三年 |
| 百回忌 | 大正七年 |